

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公

公表:令和 4年 3月 8日

事業所名 みらいのいぶき名島

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			1階、2階に分けてスペースを確保して支援している。
	2	職員の配置数は適切である	6			人数や状況に応じてスタッフを配置しているため適切。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			玄関前にスロープが設置されています。フロア内は段差なくエレベーターも設備されています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			朝礼やスタッフミーティングが設けられ前月の振り返りや改善が来ている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			アンケートの内容を把握し改善や支援の参考にしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページに公開し結果に対する対応策を掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	2	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			緊急時の対応や感染予防などで実施。保護者様対応や支援の質の向上につながる内容は出来ていない。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			定期的なモニタリングや送迎時の会話等でニーズを分析し計画書を作成することが来ている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			パーソナルシートを利用して適時更新し、常に新しいお子様の状況を把握している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			専門職で話し合い活動プログラムを立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			季節を意識した活動を取り入れ毎月違ったプログラムを行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1		環境設定シートを活用し個別に細かく設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		個別・集団とそれぞれへの参加の仕方を工夫した計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			朝礼を行い、利用者のリスクを把握、支援内容を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2		必ずではないが、支援内容、活動の内容の振り返りを行っている。毎日できるように取り組んでいきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			活動記録を利用者毎に記載している。アクシデント等は記録を残し再発防止に努めている。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1		定期的なモニタリングを行っているが、コロナ感染予防のため面談の機会は少ない。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5		1	自立支援と日常生活の充実、創作活動など組み合わせさせて支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		児発管と、お子様の状況に合わせて理学療法士や保育士も参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			送迎の際に情報共有したり学校のホームページを活用したりしている。学校が関係する際は、必ず保護者様を挟むことが決まっております。踏まえて行うことが出来ている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6			アセスメントシートや、緊急連絡先シートにかかりつけ病院と主治医の名前が記載されいつでも閲覧できるようにしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3	1	利用していた事業所とのやり取りはなく、保護者様からの情報しかない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3	1	まだ学校を卒業した利用者様がない。もし担当者会議がその目的で行われる際は保護者様からの要望で準備し提供をする。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	1	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		コロナ禍で交流する機会を設けるのは難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5	1	参加できていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			連絡帳や送迎時に話し合い、共通理解することが出来ている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	1	上司からトレーニングのような形で指導を受けている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1		契約時に説明を行っており、変更があった場合は速やかに保護者様へお知らせしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		スタッフ一人で解決せず相談の内容によっては理学療法士や上司に相談し保護者様へ助言を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		コロナ禍で機会を設けるのは難しい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			窓口、役割を設け適切かつ迅速に対応できるように体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			月に一度、みらいぶ通信を発信し、活動の内容や研修の内容をお知らせしている。
	35	個人情報に十分注意している	6			個人情報に関するものはどんなものでも事業所外へ持ち出さないようにしている。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			お子様の特性に合わせた伝え方を意識し支援をしたり、得意な部分に目を向け、そこから意思疎通に繋がるようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		コロナ禍により行えていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			緊急時マニュアルを策定し職員への周知、研修は実施していますが、保護者様には周知出来ていません。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			年2回避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1		行ってるが内容が薄いと感るので、研修を活用し理解を深めたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		1	契約時に説明し同意を得ている。個別支援計画にも反映し保護者様へ確認を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		2	食品の提供は行っていない。契約時にアレルギーの有無は確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			事例、原因究明、改善点についてまとめられた報告書を職員全体で共有している。